

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 16-1

問1)

次の資料により、下記の問に答えなさい。なお、会計期間は3月31日を決算日とする1年であり、計算上、円未満の端数が生じる場合は四捨五入すること。

(資料)

1. 当社(星稜製作所(株))は×1年度期首に、機械を7,000,000円で現金預金により購入し使用を開始している。当該機械は、耐用年数3年の定額法(残存価額0(ゼロ))により減価償却を行う。
2. 当社は当該機械を耐用年数到来時に除去する法的義務があり、当該機械購入時に除去費用を500,000円と見積もっている。資産除去債務は割引率4%で算定する。
3. 当社は×3年度期末に予定どおり当該機械を除去し、510,000円を現金預金により支払った。なお、機械の処分価値はなかった。

【設問1】 ×1年度から×3年度までの仕訳を下記解答用紙に記入しなさい。なお、各年度の利息費用の計上において、“減価償却費”勘定は使用せず、“利息費用”勘定を使用しなさい。

【設問2】 下記解答用紙に示した×2年度における損益計算書(一部)及び貸借対照表(一部)を作成しなさい。

解1)

【設問1】

単位：円  
×1年度  
機械の取得時

借方		貸方	

決算整理-減価償却費の計上

借方		貸方	

決算整理-当期の利息費用の計上

借方		貸方	

×2年度

決算整理-減価償却費の計上

借方		貸方	

決算整理-当期の利息費用の計上

借方		貸方	

×3年度

除去時-減価償却費の計上

借方		貸方	

除去時-当期の利息費用の計上

借方		貸方	

除去時-機械の除去

借方		貸方	

除去時-資産除去の履行

借方		貸方	

【設問2】

(単位：円)

損益計算書  
自×2年4月1日 至×3年3月31日

Ⅲ	販売費及び一般管理費	
	1. 減価償却費	

貸借対照表  
×3年3月31日現在

Ⅱ 固定資産		Ⅰ 流動負債	
機械		資産除去債務	
減価償却累計額	△		

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 16-2

問1)

下記、● 語句穴埋め問題の「資産除去債務に関する会計基準」について、空欄を埋めるとともに、● 正誤問題の文章について、正しいと思う場合には○印を、正しくないと思う場合には×印を付し、×印とした場合にはその理由を記述しなさい。さらに、これらを踏まえ、セリヨウライティング(株)の● 事例問題に答えなさい。

## ● 語句穴埋め問題

## 「資産除去債務に関する会計基準」一部抜粋

## 会計処理

## 資産除去債務の負債計上

## 資産除去債務の算定

6. 資産除去債務はそれが発生したときに、有形固定資産の除去に要する割引（①）の将来キャッシュ・フローを見積り、割引（②）の金額（③）で算定する。
- (1) 割引（①）の将来キャッシュ・フローは、合理的で説明可能な仮定及び予測に基づく自己の支出見積りによる。その見積金額は、生起する可能性の最も高い単一の金額又は生起し得る複数の将来キャッシュ・フローをそれぞれの発生確率で加重平均した金額とする。将来キャッシュ・フローには、有形固定資産の除去に係る作業のために（④）要する支出のほか、処分に至るまでの支出（例えば、保管や管理のための支出）も含める。
- (2) 割引率は、貨幣の時間価値を反映した（⑤）リスクの税引前の利率とする。

## 資産除去債務に対応する除去費用の資産計上と費用配分

7. 資産除去債務に対応する除去費用は、資産除去債務を負債として計上した時に、当該負債の計上額と同額を、関連する有形固定資産の（⑥）に加える。
- 資産計上された資産除去債務に対応する除去費用は、（⑦）を通じて、当該有形固定資産の残存耐用年数にわたり、各期に配分する。

## ● 正誤問題

資産除去債務は、貸借対照表日後1年以内に履行が見込まれる場合は流動負債の区分に表示し、これ以外の場合は固定負債の区分に表示する。

## ● 事例問題

セリヨウライティング(株)は、×1年度期首に構築物を1,100,000円で取得し使用している。この構築物の耐用年数は5年、残価額は0（ゼロ）であり、定額法で減価償却する。また、5年後には除去する法的義務があり、取得時に見積った除去費用は180,000円、割引率は1.0%である。

その後、×2年度末において除去費用の見積額が20,000円増加し、200,000円と見直された。×2年度末における割引率は0.8%である。

【設問1】 以上より、解答用紙における各年度の仕訳の空欄を埋め、完成させなさい。（端数が生じた場合は円未満を四捨五入すること。）

【設問2】 仮に、×2年度末において除去費用の見積額が20,000円減少し、160,000円と見直されたならば、×2年度末における資産除去債務の額はいくらになるか答えなさい。（端数が生じた場合は円未満を四捨五入すること。）

解1)

● 語句穴埋め問題

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

● 正誤問題

○/×	×の場合、その理由

● 事例問題

【設問1】

単位：円

×1年度

期首

(取得及び資産除去債務の計上)

借方		貸方	
構築物		現金預金	
		資産除去債務	

期末

(減価償却及び利息費用の計上)

借方		貸方	
減価償却費		減価償却累計額	
利息費用		資産除去債務	

×2年度

期末

(減価償却及び利息費用の計上)

借方		貸方	
減価償却費		減価償却累計額	
利息費用		資産除去債務	

(見積額の変更)

借方		貸方	

【設問2】

円